

令和6年度 自己評価報告書

学校法人 大阪経理経済学園
大阪情報コンピュータ専門学校

1. 学校の教育目標

【建学の理念】

創立者金澤尚淑博士は、「観念だけではなく、実学、つまり実践の中から真理を学び取らなければならない。真剣に学びたいと熱望し、そのために努力している若者に対して、一切の差別なく、広く高等専門教育の場が開かれなければならない」との信念に従い、1968年(昭和43年)に学校法人大阪経理経済学園を設立し、有為な人材を求める産業界の要請に応え、いち早く実践的な職業教育・専門技術教育を開始した。

【学園の使命】

本学園は、創立者の建学の理念に基づき、広く知識を教授し、教育を通じた国際性の涵養と産業界の即戦力となる人材の育成を使命とする。

【技術者像の設定】

(1) 学校教育目標

大阪情報コンピュータ専門学校は、建学の理念に基づく学園の使命に沿って、学生一人ひとりの個性を伸ばし、情報通信、及びゲーム・コンピュータグラフィックス・デザイン等の専門分野における「実践的な専門的知識・技術」「論理的判断能力」「情報通信技術(ICT)を活用したコミュニケーション能力」を高める教育を実践し、未来の産業社会で活躍できる中堅技術者・クリエイターを養成する。

(2) 教育分野別目標

(A) 情報処理分野

コンピュータのハードウェア・ソフトウェア・データベース・ネットワーク等の情報通信技術(ICT)の各要素技術についての実践的な専門知識・技術を修得し、社会のニーズに応える情報通信システムの設計・構築・運用に活用できる人材を養成する。

(B) ビジネス分野

経営・商業実務・情報通信技術(ICT)についての実践的な専門知識・技術を修得し、企業活動のために活用できる人材を養成する。

(C) ゲーム分野

ゲーム企画、グラフィックデザイン、UI/UX 設計、アニメーション、プログラミング、スクリプト制作等についての実践的な専門知識とスキルを修得し、ゲーム業界やユーザのニーズに応えるゲームコンテンツを制作できる人材を養成する。

(D) デザイン分野

ドローイング、デザイン、色彩、デジタル素材加工技術、コンピュータグラフィックス、アニメーション、オーサリング等についての実践的な専門知識・技術を修得し、社会のニーズに応えるデジタルコンテンツ制作に活用できる人材を養成する。

【学習・教育到達目標】

<DP の設定>

1. 各専門職業分野において必要な実践的な専門的知識・技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる。(知識・理解)
2. 変化する社会・産業界の要請に対応し、問題解決のために、多面的な観点から自立的かつ論理的な判断を行うことができる。(思考・判断)
3. 豊かな人間性・創造性を持ち、専門職業人として技術を社会に役立てることができる。(態度)

4. 情報化・国際化に対応する基礎能力を持ち、インターネットなどの情報通信技術(ICT)を活用しながら、自らの考えを論理的に説明し伝達することができる。(技能・表現)
5. 専門職業人として、専門的知識・技術を修得するために、自ら継続的に学習し、キャリアを形成できる。(関心・意欲)

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

○「情報デザイン教育」の充実による「実践力」の養成

Society5.0の実現に向けたICTとデジタル経済の進行において、ICT技術者・クリエイターには産業社会の中核としての役割が期待されている。このような状況の中で、本校がこれまで以上に質の高い職業教育でICTスキルを身に付けた卒業生を輩出することによって社会の期待に応えていくために、「情報デザイン教育」の実践と充実を最重要課題として取り組む。「実践力」の養成に向けては、目指す「実践力」の内容を学内において共有するとともに、その目標を達成するための「効果的な教育方法」の開発と実施に注力する。

○三系分野体制による「実践力」教育の充実

IT・ゲーム・デザイン系分野が目指す専門職種に応じた「実践力」教育の一層の充実とその成果の向上を促進するために、学部運営体制を従来の一学部体制から三系分野体制へと変更し、学部運営・教育改革における各系分野長及び所属教員の自律性と責任性を高める。

○IT系分野の教育力強化

「実践力」養成の重要な目標の一つである資格取得に関しては、授業科目ごとのFD活動(授業内容・方法を改善するための組織的な取り組み。以下、科目FD)を強化し、教育体制・教育方法を改善することで資格取得率目標を達成する。専門教育については、専門職種の仕事に必要な知識やスキルの内容を講師・学生間で共有し、その内容に基づく授業を実施する。また、仕様書に沿った多様な業務体験を通じてスキルの向上を図る実践型科目を導入する等、実践力の養成に向けた次年度カリキュラムを構築する。

○ゲーム系分野の教育力強化

ゲームPG・CG分野で構成されたゲーム系分野を立ち上げ、作品制作を中心としたカリキュラムを構築する。これにより専門職就職率の向上を実現し、その成果でもって学生募集を拡大する。また、「ものづくり」への意欲を高めるために、ゲームエンジンを活用した科目を導入し、複数のゲームを完成させる授業を実施する。

○デザイン系分野の教育力強化

変化する業界の動向に対応するために、必要となる技術要素を実現可能な項目からカリキュラムや授業内容に取り入れる。また、2025年度から設置するアニメーション・イラスト分野、CG映像分野の新コース設置に向けて、関連科目を強化する。

○就職実績向上のためのキャリア支援の充実

就職実績を向上させるために、卒業前年の早期から職種理解の促進、就活スキルの向上、インターンシップへの参加や受験活動への行動力向上に取り組む。また、企業の採用動向を踏まえた学内企業説明会を実施するとともに、学生のニーズに応じた求人開拓を行い、就職実績の向上を目指す。

○競争的環境下における志願者確保

大学との競争激化等に伴い、大半の専門学校志願者がAO入学を中心に9月までに進路決定する傾向が一層顕著になる中で、AO志願者を拡大するために募集力量を集中的に投入する。そのために2年次の体験参加者やガイダンス面談者、3年次の初接触者など志願者の属性に応じた対応を強化する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

本校では建学の理念・学園の使命に基づいて、教育目的を「未来の産業社会で活躍できる中堅技術者を養成する」と定め、人材像を「Society5.0 に向けた技術の進展に対応するとともに、情報通信技術(ICT)の企業現場においてキャリアアップを目指せる自立した技術者・クリエイター」と定義した。

2024年度は、分野が目指す専門職に応じた実践力教育の更なる充実に向けて、「ものづくり」を通して仕事ができることを実感させる教育方法の開発と授業実施の準備に取り組んだ。

② 今後の改善方策

・建学の理念・学園の使命、教育目標・DP 等について、関係業界・保護者等に対しても、様々な機会を通して、より丁寧に周知していく必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・目標等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1

・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1
----------------------------	---------

①現状と課題

校長を責任者とする学校運営委員会において、事業計画と目標に沿った運営方針を策定している。そして学校全体の事業計画案の策定と併せ、各委員会・各課において実施計画案を策定し、学校運営委員会で審議・決定の上、教授会と各課会議において報告・共有している。また、「実践力」教育の一層の充実とその成果の向上を促進するために、IT・ゲーム・デザインの各専門分野が独立した三系分野運営体制を発足させた。

理事会と評議員会は学校法人大阪経理経済学園寄附行為に基づいて適正に開催され、学校法人及び学校全体の重要事項が審議・決定されている。また運営組織や意志決定機能は組織図において明確化されている。学校運営委員会の下に各委員会・各課の会議が定期開催され、実施計画に基づく各種業務が遂行されている。

予算については、予算編成事務局の下で策定され、理事長が編成し、理事会の承認と評議員会の諮問を経て、法人総務部が適正に執行管理している。

教育活動等に関する情報については、文部科学省の「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」で掲げられた項目や、職業実践専門課程の基本情報、修学支援新制度の認定校として公開すべき情報について、学校のホームページにおいて公開している。

情報化については、出席・成績等の学籍管理、教育、就職支援、学生サービス、また予算・会計等、全業務の情報システム化を図っている。そして情報メディアセンターを責任部署として、学内ネットワークシステムの安定運用のための体制強化と更なるセキュリティ強化に取り組んでいる。

②今後の改善方策

・運営方針に沿って、自己点検・評価を日常的に行い、教育の充実と業務の改善を図る。

(3)教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1

・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
・教職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

○教育理念と教育課程

本校では建学の理念・学園の使命、教育目標・DP に基づいて、CP(カリキュラムポリシー)・シラバスを一貫した形で策定している。企業等と連携した教育課程編成委員会実施を通じて、関連業界の要請を反映した育成人材像の見直しを行い、CP 及びカリキュラムツリーを作成し、体系的な教育課程を編成している。また、各授業のシラバスの学習到達目標は学生が主語となった「～ができる」という明確な目標で記述している。

「職業実践専門課程」は、2018 年 4 月より本校の全 8 学科が認定を受けた体制となり、認定要件である企業等と協力した教育課程編成委員会や自己評価・学校関係者評価等の取り組みを通じて、教育活動を点検する仕組みが一層強化されていると考える。

○企業連携授業・インターンシップ

各専門分野に関する職業で必要となる実践的かつ専門的な能力を育成するため、企業等と連携し、システム開発や作品制作に関する演習授業を実施するとともに、地域連携プロジェクト等を通じて「ものづくり教育」を充実させる取り組みを継続して行った。また、株式会社サイバーエージェントや株式会社日本総研情報サービス等へのインターンシップ参加を促進した。

○IT 系分野の専門教育強化

企業現場のオン・ザ・ジョブ・トレーニングのように、仕様書に基づいた多様な業務遂行体験を通じてスキル向上を図る実践型科目「PG 実践」を導入し、成果物を基にスキルを評価できる教育方法と評価方法を具体化する等、次年度カリキュラムを構築した。また、プログラミングスキルとプログラマ・SE 職種への意欲を高めるため、学内プログラミングコンテストや IT 業界講演を実施した。

○ゲーム系分野の専門教育強化

専門職就職に必要な作品制作力を高めるため、1 年次から作品制作を行う新科目「ゲーム制作演習」等において、難易度に応じた教材開発と、よりレベルの高い作品制作を可能にする教材開発を行った。また、1 年次からゲーム制作の達成感を実感させるために、ゲーム開発支援ツールであるゲームエンジンを利用した新科目を実施した。

○デザイン系分野の専門教育強化

変化する業界の動向に対応した項目をカリキュラムに取り入れるとともに、2025 年度からの新コース設置に伴

い、アニメ・イラスト分野の新科目「2D アニメーション基礎・応用」、「イラスト基礎」を1年次に配置した。また、実写映像業界への就職に向けた指導の改善や科目内容の強化等に取り組んだ。

○学生作品展・メディアフロンティア

学生作品展 Media Frontier を学内展示・Web サイト展示で開催し、215 点の作品を展示した。多くの業界関係者に作品を観覧していただく機会となり、学修成果発表の場として学生の成長に繋げることができた。

○授業評価の実施・評価体制

教育の質保証に向けたFD活動を推進し、授業評価アンケート等の年間を通じた教育評価改善活動に取り組んだ。学生の授業理解度評価が低い講師に対し、面談を通じて課題点を整理する等、授業満足度を高める取り組みを行った。

○教職員研修

教員が最新技術動向や業界が求める人材像を把握し、先端的な知識・技能等を修得するために、計画的にIT・デザインの各関連分野の専門技術研修に参加した。また、留学生の増加に対応した教職員の支援力量の強化を目的とした全体研修会「日本の留学生を取り巻く状況と教育機関に求められる支援」、「日本の留学生を取り巻く雇用環境と就職支援」を実施した。

② 今後の改善方策

○IT系分野の専門教育強化

企業が求める実践力を養うため、小規模のアプリケーション開発から始め、段階的に規模を拡大し、最終的に業務システムを開発する授業内容や教材を準備し、次年度授業に反映させる。また、専門職に対する意欲を高めるプログラミングコンテストやIT業界人講演等の正課外教育を強化する。

○ゲーム系分野の専門教育強化

専門職就職率の向上と入学生の確保に向けて、ゲームPG・CG分野合同での作品制作を中心としたカリキュラムに再編し、作品の量の拡大と質を向上させる。また、コンテストや外部イベントへ積極的に参加し、業界関係者からの意見を反映した作品制作を継続することで、学生の作品制作能力を向上させる。今年は日本最大級のインディーゲームの祭典 Bit Summit(7月開催予定)に出展する。

○デザイン系分野の専門教育強化

実務を想定した実践的な専門教育を継続的に行うため、業界で必要とされる技術要素を可能な範囲でカリキュラムに取り入れる。特に、2Dアニメーション・イラスト・実写映像等の分野において優秀な人材を輩出する。また、作品ポートフォリオ指導を軸にした専門教育、個別対応による就職支援といった本校の特色を強める。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・中退率の低減が図られているか	④ 3 2 1

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

○委員会体制による目標の管理

本校ではキャリア支援委員会・学生生活指導委員会の専門委員会等を主管として就職率・資格取得率・中退率等の重要指標の管理を行っており、それぞれの成果を向上させている。

○就職率の向上

早期化する企業採用に対応するため、卒業前年度のインターンシップ参加を促進し、インターンシップ経由の内定を増やす等の取り組みを行った。その結果、過去最高の就職率を達成した。また、上位層に対する受験支援を強化することで、商社・金融・鉄道・航空のユーザ系IT企業や大手有名クリエイター系企業への内定を獲得することができた。

○IT系分野資格取得率の向上

FE試験の取得率目標を継続して達成するために、中間層の学力向上を重要テーマに設定した。具体的な取り組みとして、学生に学習方法を伝える、段階的に実力を向上させることができる演習問題に繰り返し取り組ませる等の教育改善に取り組んだ。その結果、2023年度入学生の2年間取得率は過去最高となり、目標を達成した。また、2024年度入学生も1年間取得率目標を達成した。応用情報技術者試験においても合格者を輩出した。

○ゲーム系分野コンテスト及び専門職就職率の向上

作品制作力の向上を目指し、外部コンテストへの積極的な出展や業界関係者の意見を反映した作品制作に取り組ませることで、2作品が全国専門学校ゲームコンペティション準グランプリを獲得した。また、学生CGトライアル「WHO'S NEXT? 2024」においても入賞という成果を上げた。専門職就職に関しては、難易度の高い大手企業であるスクウェア・エニックスに加え、RENGAME、アエックス等のゲーム企業に内定した。

○デザイン系分野コンテスト及び専門職就職率の向上

「自発的に仕事に取り組むことができるクリエイター」を養成するために、外部企画展や外部コンテストに参加した。その結果、産経新聞社主催の「絵師100人展14大阪展」併設展示である「NEXTAGE(学生作品展示)」にイラスト作品を展示された他、「大阪府医師会ニュースCGデザインコンテスト」では2作品が「府医ニュース賞」を受賞する等、計5つのコンテストで7作品が入賞を果たした。また、Studio GOONEYS、オムニバスジャパン、タニスタ、トッパングラフィックコミュニケーションズといった難関企業への就職も実現し、専門就職率目標を達成した。

○中退率の低減

学業継続率の向上と一層の中退率低減に向けて、新たに高い1年生一般中退率目標を再設定した。学生が安心して学校生活を送れるよう、入学後の4月に実施する個人面談に加え、学習支援目標・授業理解度・友人関係等を確認するための6月の個人面談や欠席傾向の学生への支援といった指導体制を整備した。また、学習の動機付けや友人・担任との信頼関係構築を目的とした新入生フレッシュャーズキャンプを、コロナ禍後5年ぶりに開催した。これらの取り組みの結果、1年次一般中退率目標を達成した。

② 今後の改善方策

○IT系分野資格取得率の向上

各種資格取得目標の達成に向けて、2024年度の取り組みと結果を振り返り、関連科目及び対策講座を改善する。また、新たに設置した資格小委員会の下で、入学時から学生の学習モチベーションの向上を図り、授業外での自己学習の指導と管理を強化する。

○ゲーム系分野コンテスト及び専門職就職率の向上

プレイアブルや企画のコンテストに加え、CGアート系のコンテストにも積極的に応募し、入賞を目指す取り組みを強化する。また、専門職就職率を高めるために、近畿圏のゲーム企業に加えて東京圏のゲーム企業との連携を深め、学生の就職活動の幅を広げる。

○デザイン系分野コンテスト及び専門職就職率の向上

アニメ・イラスト分野における外部コンテストでの入賞を目標とし、コンテスト応募に向けたイラスト静止画CG作品等の指導強化に取り組む。また、専門職就職において他校との競争力を強化するため、学生の作品制作への意欲と技術の向上を目指し、外部のクリエイターを招聘する機会を増やす。

○中退率の低減

学業継続率の向上と低い中退率の維持に向け、初年次教育の充実、クラス担任を中心としたきめ細やかなフォローアップ、学生の属性に対応した組織的な支援等の取り組みを強化する。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか	4 3 ② 1

① 現状と課題

○就職支援体制

就職に関する支援は主管委員会であるキャリア支援委員会とクラス担任の協力体制で実施している。就職率目標の実現に向けては、卒業前年度の①就活意欲とモチベーションの向上、②自身の特性理解する自己分析、③職種選択、④企業選択、⑤文章へのアウトプット、⑥表現のアウトプットの支援について、年制別や留学生等の属性別の新たな支援を実施する等の改善を行った。

○学生生活支援

学生生活の活性化に向けて、クラス交流会やUSJツアー、スポーツ行事であるOICフェスティバル等を開催し、学校行事を充実させた。また、女子学生や留学生の交流促進を目的とした対象別イベントも実施した。さらに、学生の励みとなりチャレンジ意欲を高めるために、学内奨学金の給付に加え、資格取得者、作品コンテスト・M Fグランプリの受賞者、留学生スピーチコンテスト優秀者等を対象とした優秀者表彰式・祝賀会を実施した。

○高専連携教育

高校と連携したキャリア教育・職業教育の取り組みとして、大阪府下を中心とした高校への講師派遣や出前授業実施等の協力を行った。また、本校デザイン系分野の認知度向上と高専連携教育の一環として、「高校生文化部応援プロジェクト」に参加した。グループ校である大阪情報コンピュータ高等専修学校とは、定期的な高専連携協議会の開催等を通じて、緊密なキャリア教育・専門教育の連携・協力を行った。

② 今後の改善方策

○就職支援体制

卒業前年度の就職支援として、年制に応じた支援スケジュールを明確にした支援を実施し、系分野とキャリア支援委員会が協力して職種理解を促進する。また、引き続き、学生の就活スキルの向上とインターシップ参加、受験活動等の意欲を高める。増加する留学生への対応としては、日本国内での就職実績向上のための支援プログラムを充実させ、求人企業の開拓に取り組む。

○学生生活支援

学生が安心して学び、学校生活全体を通じて成長できるよう、クラス、学年、分野といった学生間の交流を育む学生生活支援を行う。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

学生の携帯 PC 環境における安定稼働と安全性向上を目指し、ネットワーク機器のファームウェア更新と、将来的な負荷増大や要件変化を見据えたネットワーク構成の見直しを継続的に実施した。また、ゲーム系・デザイン系分野の教育効果を高めるため、導入から7年が経過した3つの実習室PCを、専門教育に必要な主要アプ

リケーションが快適に動作する仕様に更新した。

② 今後の改善方策

統合ネットワークと基幹サーバの運用継続と安定稼働に向けた改善を実施する。また、全ての学内 PC を Windows11 へ移行する計画を策定し、移行作業を実施するとともに、実習室 PC 及び学生携帯 PC のアプリケーション更新を継続的に支援する。

(7) 学生募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学生納付金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

○高等学校等への情報提供

志願者、保護者、高校教員、企業関係者に対して、学校案内パンフレットや学校ホームページ(PC版・スマホ版)、YouTube等のSNS、進学情報サイト、進学情報誌などの媒体を通して、学校の概要や建学の理念、教育の特徴、カリキュラム内容、取得可能資格、就職先企業などの学校情報を掲載している。高校進路指導部に対しては、進学説明会で訪問した機会や直接訪問する際に当該高校出身者の就学状況や就職状況等について詳しく説明している。また募集要項を別冊で作成、入学資格や入学手続き、学費や必要経費、奨学金などの情報を提供している。これらの情報を掲載するにあたっては、本校独自の広告規定を策定し、常に公正を期し、事実に基づいて正確に表記するとともに、学校として節度ある表現を徹底している。また学校教育法や大阪府私立学校情報提供指針等の学校情報の提供に関する法令や指針、個人情報保護に関する法律や著作権法等の広告に関連する法令に則って、細心の注意をはらって情報提供・広告掲載を行っている。

○適正な募集活動

学生募集にあたっては、上記、学校情報の提供とともに、年間を通してオープンキャンパスを開催する他、高校や地域等で開催される進学説明会に参加することを通して、志願者、保護者と直接面談する機会も確保し、入学相談に応じている。特にオープンキャンパスにおいては、専門学校での授業をイメージできる体験実習以外に、入試説明会、業界説明、在校生作品紹介など多様なプログラムを実施している。AO入試の実施にあたっては、大阪府専修学校各種学校連合会の運用基準にしたがってスケジュール等を遵守している。

資格取得や就職状況等の情報については、年度ごとの合格者数や就職者数を公表、また合格者、就職者のインタビューを掲載するなど、学校の教育実績を正確に伝えている。2024年度は産業界で求められるIT人材について高校生の関心を広めるため、航空や鉄道など各産業を支えているIT技術についてのリーフレットを作成し志願者に配布した。また、継続して在学生や卒業生を対象にしたカリキュラムや授業内容、教員の指導力、学校生活、就職サポートなど、学校全般に関するアンケート調査を実施してきた。

○適切な学納金の設定

学納金については、関西における同分野専門学校の平均と比較しても低い金額である。学納金負担者の経済状況等も考慮して学費の延納・分納制度も導入しており、本校の教育内容、施設設備等に鑑みて適切な金額であると考えます。

② 今後の改善方策

○教育の特色を明確にした情報提供

- ・情報系学部の新設など大学との競争が一層激化する環境の下で、学んだ内容が職業につながる専門学校としての本校の教育特色を分かりやすく打ち出すなど、募集活動における創意工夫を行い入学者の安定的確保をはかる。また、一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会から示された AO 入試等についての指針を踏まえ、入試制度を志願者や高校進路指導部に対して周知し、入学選考を適正に実施する。
- ・留学生については、「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」による就職条件の拡大、手厚い留学生サポート、低学費などを訴求する。
- ・IT テクニカル学科は、大学・短大出身者、社会人経験者に学びなおしの機会を提供し、社会人を対象とした教育訓練給付金の認定校であることを幅広く訴求する。

(8)財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
・財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

学生生徒等納付金収入を基礎とした学校の財務基盤は中長期的に安定している。量入制出の原則に基づき、教育環境の整備・充実を進めると同時に、徹底した業務の見直し・経費節減を図っている。

毎年9月より、予算編成事務局の下で次年度の事業計画案と予算案の策定を進め、理事長が編成し、3月に理事会の承認と評議員会への諮問を経て、適正な予算執行を行っており、予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。

学校法人及び学校の会計は、学校法人会計基準に則り、適切に処理されている。令和6年度においては旧私立学校法第37条第3項(令和5年5月8日施行)に基づく監事の監査と、私立学校振興助成法第14条第3項に基づく独立監査人(公認会計士)の監査を受けており、会計監査は適正に行われている。

収支計算書・貸借対照表・監査報告書等を学校のホームページに掲載して公開している。また、新私立学校法第107条第6項(令和7年4月1日施行)に基づき、請求があった場合(財産目録等は利害関係人から請求があった場合)には、閲覧に供する体制を整備している。

②今後の改善方策

- ・引き続き教育環境の整備・充実を進めると同時に、費用対効果を勘案し、更なる業務の見直しを進める。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

教育基本法、学校教育法、専修学校設置基準、私立学校法、学校法人会計基準等、各種法令を遵守し適正に運営している。特に重要項目については、教職員への周知を更に進める必要がある。

個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」と「文部科学省所管事業分野における個人情報保護に関するガイドライン」に基づき、適切に取り扱っている。入試広報業務においては、学校のホームページにプライバシーポリシーを掲載し、本校の「個人情報保護の考え方」を明示している。

学内においては、学内ネットワーク及びインターネット・電子メール利用に関して、モラルの維持とセキュリティ対策を目的に「ネットワーク利用規程」を定め、教職員と在学生に遵守を義務付けている。

サーバ・ネットワークシステムについては、継続的に情報セキュリティ対策の強化に取り組むとともに、個人情報と業務データに対するアクセス権の厳重な管理によって、安全性の確保と情報流出の防止に努めている。

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価を実施している。またその結果を、学校関係者評価委員会を開催して報告し、意見を頂いた上で学校運営に反映させている。

自己評価報告書と学校関係者報告書は、学校のホームページに掲載して公開している。

②今後の改善方策

- ・予算・事業計画の中に自己評価及び学校関係者評価の結果を反映する。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 3 ② 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 3 ② 1

・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1
--	---------

① 現状と課題

国は令和4年度に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動あり方に関する総合的なガイドライン」を策定するなど、学校のクラブ活動における地域との連携を推奨している。このような中で、本校は2024年度より、進路サポート業者と協力して「高校生文化部応援プロジェクト」という形で、大阪府下の高校の美術部やイラスト部などの部活動に、プロの講師として生徒を指導する取り組みを実施した。

産学連携の実績としては、インテックス大阪で開催された「第28回オートメッセ2025」に、CG映像分野の学生がオフィシャル撮影スタッフとして参加した。また、大阪商工会議所南支部主催の「あべの・天王寺サマーキャンパス」において、子供とその家族が自宅からオンラインで楽しめるプログラム「オンラインで学ぶアナログお絵かき体験」を学生が実施する等、地域貢献にも積極的に取り組んでいる。

② 今後の改善方策

- ・地域の活性化に向けて地域社会との連携を強化する。
- ・積極的にボランティア活動の奨励を検討する。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
・留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1

① 現状と課題

本校は開校以来、留学生を積極的に受け入れる体制を整備しており、受け入れに当たっては日本語能力試験2級レベル以上の取得を明確にした上で、筆記試験と面談を実施する等、適切に受け入れている。在籍管理については適切な手続きと指導を行っており、入国管理局からは「適正校」として認定されている。

留学生の増加に対応して、「留学生支援プロジェクト」を発足させ、日本語能力の向上、学生生活の満足度の向上、日本での就職支援などをテーマに留学生への支援を組織的に展開した。

具体的には、クラス担任と留学生担当による学修相談、生活指導、進路指導等の個別相談体制や留学生の特別奨学生制度を整備する等、学びやすい修学環境を提供し専門職外国人人材を養成した。

また、経済的な困難を抱える留学生に対し、JASSO 等からの支援案内を周知するとともに、本校留学生特別奨励奨学金などによって修学をサポートすることができた。

進路に関する支援については、採用に意欲が高い企業の新規開拓をはじめ大学編入学の受験指導等、入学時から将来の進路(大学進学や就職等)を意識した留学生の支援ができた。

② 今後の改善方策

- ・今後も増加が見込まれる留学生に、質の高い教育と充実した各種支援サービスを提供するため、教職員全体

の意識向上に図るとともに、新設の「留学生委員会」を中心に専門教育、日本語教育、学生支援、就職の各支援を強化していく。

以 上